

特集

## 2026トップマネージャーのための新春セミナー

# 2025年大阪・関西万博を振り返る

～地域から考える万博のレガシー～

日時：2026年1月21日(水) 15:30～17:30

会場：大阪商工会議所7階大ホール

主催：一般社団法人 生産技術振興協会  
共催：公益財団法人ブルーオーシャンファンデーション  
後援：一般社団法人関西経済同友会・大阪商工会議所・  
一般社団法人大阪大学工業会・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会・  
公益財団法人大阪観光局・公益社団法人日本WHO協会  
特別協賛：NPO法人ゼリ・ジャパン・大和ハウス工業株式会社・野村證券株式会社



### 開会挨拶

(一社)生産技術振興協会 理事長 堀池 寛

本日の主催者であります生産技術振興協会は、皆様方の支援を受けまして活動を行っております。主には大阪大学、主には大阪大学を中心に京都大学、東京大学など関西を中心とした大学とか、産総研などの研究機関、あるいは地元の大阪、京阪神や名古屋、九州を含めました産業界の皆様との技術交流の場として様々な活動を展開させていただいております。

特に中心となって行っておりますのは、地球温暖化対策としていろいろ施策が行われているが、うちの工場は何をすればいいんだろう？とかそういったようなことがございます。そういったことに対応していくため、去年はセミナーを開催いたしました。

デジタルツインと言いまして、最近のIT技術を駆使し、仮想空間上に現物と同じものを再現し、現物を触らないでコンピューター上でいろんな操作を確認するとか、最近も生成AIとかいろんなことで発展しておりますが、そういったものをどのように生産現場や社会に役立てていくことができるのかというふうなセミナーを開催いたしまして、今年もいろんな企画を立てているところでございます。

それ以外には、若手研究者の国際交流としまして、大学の若い先生方を海外に派遣する、あるいは海外から大阪や京都に来られる研究者の方々の交流を支援するという事業を行っております、今年も進めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

昨年度、今日のテーマでもあります関西万博が非常に大きなエポックを画したと思います。最初はマスコミでいろいろ言われてましたけれど、私の知り合いでも東北から何回も大阪に来たり、英国に住んでいる知り合いが英国館で1週間展示会の案内役をしなければならなくなったとか、ロンドンからわざわざ大阪まで出てきたり、いろんな意味での交流が盛んになって良かったと思います。それに関しまして10年以上前ですけども、アメリカのジェネラルエレクトリック社にいたジャック・ウェルチという人が、選択と集中という言葉を持ち出しまして、一世を風靡したことがあるんですけど、いろいろやって

みたら事業が沈滞してあまりうまくいかなかった。それはなぜかという多様性を無視する、あるいは現状を改革するということを怠ると良くないということでありまして、それが日本の現状を見ても、やはりここ何十年、失われた10年が今は失われた三十年になっておりますが、やはりそういう集中をし過ぎだということがあると思うんです。それでもことで考えてみますと、今日のテーマでございます松井先生とか、橋下先生がおっしゃっている大阪都構想とか副首都とか道州制といった、現在の東京一極でモノトーンの日本を少しでも変革していく努力とい

うのは非常に重要であると思ひまして、そういう意味で生産技術振興協会と新しい大阪を中心とした日本の姿というふうなものを皆様と考えながら、今日1日講演会を聞いていただきまして、最後にはパネルディスカッションも企画されておりますので、どうぞよろしくお付き合いいただければ大変にありがたいと思ひます。

簡単ですが、今年も皆様の健康とご発展を祈りながら、ご挨拶にかえさせていただきたいと思ひます。今日のご出席賜りましてどうもありがとうございました。



会場風景